

平塚の石仏めぐり

15. 上吉沢（中吉沢）編



妙覚寺山門前 宝塔

上吉沢（中吉沢）の石仏

上吉沢は、平塚市西部の大磯丘陵に立地し、南部は大磯町と接しています。高度経済成長期までは純然とした農業地域で、丘陵に立地することから煙草栽培などの畑作が中心となっており、『新編相模國風土記稿』による天保年間における上吉沢村の戸数は102戸でした。昭和60年代以降、丘陵地の東部には日向岡、北部にはめぐみが丘が宅地造成されました。

旧上吉沢村の各集落は丘陵の谷である谷戸ごとに分散しており、行政区分ではありませんが台、山ノ神、山田屋敷、飛谷津、山入、四十畑の六集落を上吉沢、寺前、宮下、新宿、神戸の四集落を中吉沢と称していました。

このマップでは主に中吉沢に点在する石造物を紹介します。この地で確認されている信仰に起因する石造物は67基あまりで、そのうち5割強の35基が妙覚寺にあります。

種別で見ますと、馬頭観音が最も多く11基造立されています。次いで数が多いのは地藏で8基、道祖神が6基、水神と巡拝塔が各4基の順となっています。

見どころとしては妙覚寺の頬焼け地藏（寺伝によれば中世室町時代の作）や延命地藏など沢山の石仏に、また少し足を延ばして、ハイキング気分で霧降の滝の不動明王や日之宮山中の立石（神体石）などに会うのもお勧めです。

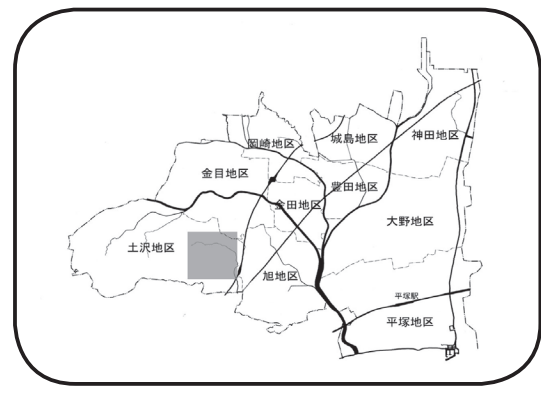
石仏豆知識 11. 不動明王

不動明王は、身から火焰を出し、その火で悪魔や煩惱^{ぼんのう}を焼き尽くす火生三昧^{かしょうさんまい}に入って一切の罪障を打ち破り、動揺しないことから不動といいます。大日如来が変身したとされる仏^{ぶつ}で、その像容は右手に宝剣、左手に繚索^{りょうさく}という縄を持ち、忿怒相^{ふんぬそう}の一面二臂^{いちめんにひ}で岩の上に座す姿で表されます。

明王部を代表する存在で古来から石仏の造立があり、富山県^{かみいち}上市町大岩の日石寺磨崖仏は平安時代のものです。不動明王は治病、安産、災害の除去、怨敵降伏^{おんてきこうぶく}、財福を得るなど広く種々の願いをかなえてくれるとされています。江戸時代以降、不動明王を祀る寺院が増加しました。個人の信仰だけでなく「お不動さん」と呼ばれて親しまれ、市内の岡崎などでは不動講も作られました。

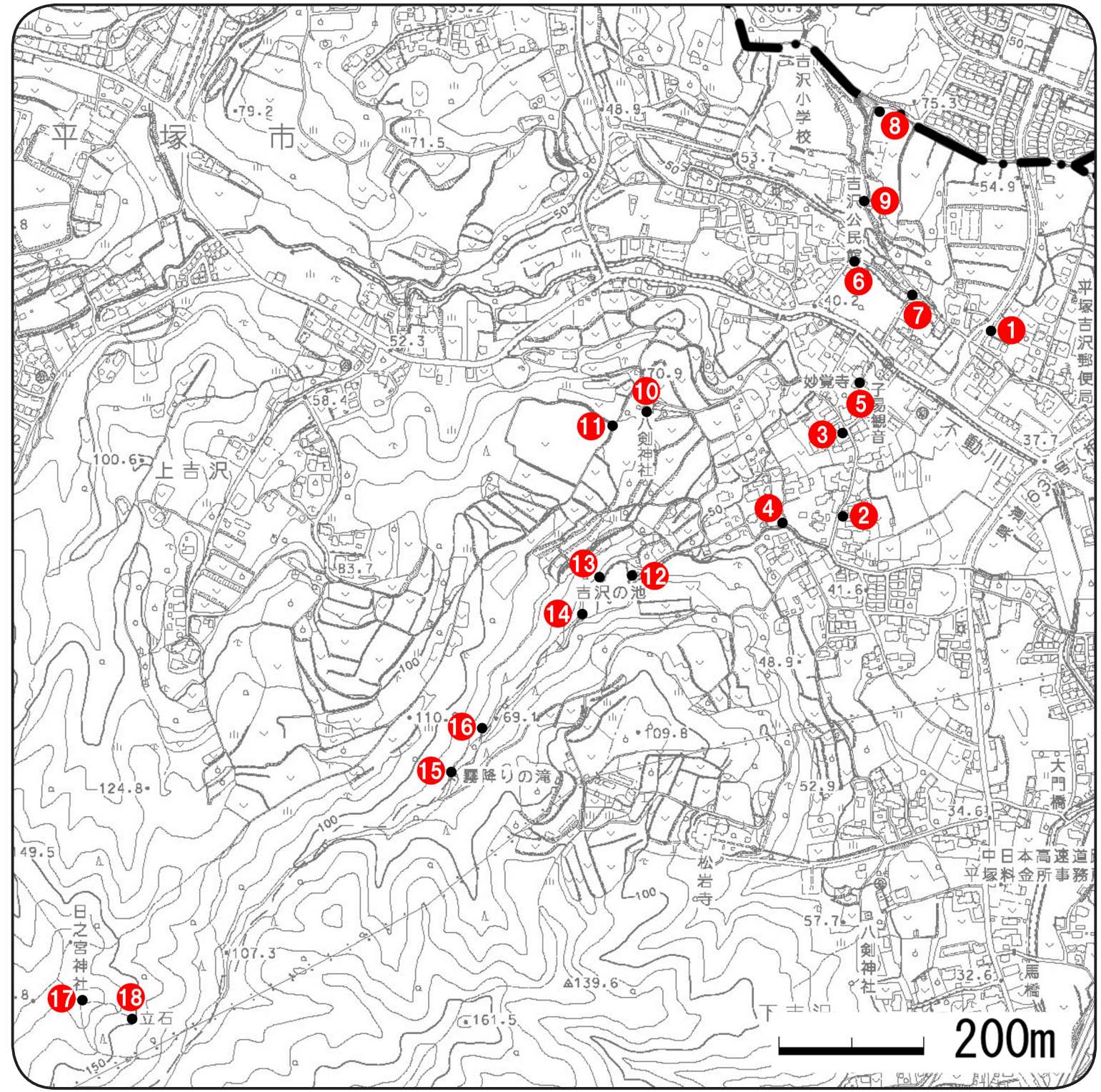
石造の不動明王は市内に20基あり、不動の像を彫ったものが12基、「不動尊」などの文字塔が7基、それに不動明王の化身である俱利伽羅不動^{くりからぶどう}（土屋惣領分 駒ヶ滝）の1基があります。また大山不動の参詣に利用された大山道は市内に何本も通っており、道標を兼ねた不動明王が4基あります。

上吉沢には霧降の滝の崖中腹に50cmほどの小さな坐像があり、「尊」の種子が刻まれ、その傍らの手水石に「奉納不動尊 天保十亥年」（1839）の銘があります。毎年7月28日に妙覚寺より祈祷がなされ、修験者の行場であったことを物語っています。



中吉沢の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	上吉沢新宿路傍	上吉沢 184	道祖神
2	上吉沢宮下路傍	上吉沢 292	不動明王
3	妙覚寺西路傍	上吉沢 339	道祖神
4	上吉沢宮下路傍	上吉沢 362	道祖神
5	妙覚寺	上吉沢 388	観音・巡拝塔、六地藏、地藏、宝塔・読誦塔・一次一石塔、宝篋印塔他多数
6	上吉沢神戸路傍	上吉沢 443	道祖神
7	上吉沢神戸路傍	上吉沢 445	地藏
8	上吉沢神戸路傍	上吉沢 456	馬頭観音
9	上吉沢神戸路傍	上吉沢 461	弘法大師・廻国塔



番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
10	八剣神社	上吉沢 758	手水石、狛犬他
11	上吉沢宮下路傍	上吉沢 774	神名塔
12	吉沢の池畔	上吉沢 804	水神
13	吉沢の池畔	上吉沢 810	水神
14	吉沢の池畔	上吉沢 845	記念碑
15	霧降の滝	上吉沢 875 付近	不動明王、水神他
16	霧降の滝東北崖	上吉沢 873 付近	浅間大神
17	日之宮神社	上吉沢 2549	石祠
18	上吉沢山中	上吉沢 2251	神体石（立石）

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け
石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。
また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（15. 上吉沢（中吉沢）編）
発行日：令和4年11月
編 集：石仏を調べる会
発 行：平塚市博物館
住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電 話：0463-33-5111

上吉沢宮下路傍の不動明王 (地図番号②)

宮下の住宅地の小路に、コンクリートの基壇上に不動明王立像があります。火焰光背の丸彫で右手に宝剣、左手に羂索を持ち、その下に龍の顔が覗いています。着物の裾に「不動明王」と刻まれ、胸元の模様など精緻な彫が伺えます。

紀年銘がなく造立年代は不明ですが、宮下谷戸の大山講で、不動尊の掛け軸を輪番の宿に回し祀っていたそうです。



不動明王(年代不詳)

上吉沢宮下路傍の双体道祖神 (地図番号④)

上吉沢宮下の集落で祀る高さ約60cmの双体道祖神です。紀年銘の彫られていたと思われる部分が剥落して分かりませんが、正面に「[正]月吉日」「宮下氏子中」の銘があります。

また周りには空風輪や火輪、地輪などの五輪塔や宝篋印塔の残欠がたくさん並べられています。

現在でも毎年1月14日に道祖神の前で、締め飾りや書初めなどを焚き上げる、どんど焼きが行われています。



双体道祖神(年代不詳)

妙覚寺の石仏(1) (地図番号⑤)

妙覚寺は天台宗のお寺で、寺伝によれば平安後期の康治元年(1142)に持長上人によって開山されました。当初は八剣神社の裏手八塚の丘の上にありました。中世の頃に全てが焼失し再建されるも、再度の火災で江戸時代の初めに現在地に再建されたとのことです。

寺の四脚門は旧寺地から移築されたものと伝えられ、県の指定文化財となっています。境内には観音堂があり、本尊の准胝観音は子安観音と呼ばれ、安産にご利益があるとされています。また、相模新西国三十三観音霊場の第二十六番札所になっています。

境内にはここでは紹介できない地蔵や六地蔵、阿弥陀如来、馬頭観音、巡拝塔などたくさんの石仏が点在しており、寺の歴史の重みと、寄進した往事の人々の信仰の厚さが感じられます。

宝塔・読誦・一字一石塔 山門入口の左側に建つ高さ約2mの塔で、享保18年(1733)に造立されています。

塔正面には「**𑖀**」(多宝如来)・「**𑖔**」(釈迦如来)の梵字が、また、右面には「法華読誦 漸一千部 一字一石 書寫一部」と彫られています。

塔身の龕部内には、宝塔の本尊である多宝如来と釈迦如来が並んで鎮座しています。



宝塔・読誦・一字一石塔(享保18年)

妙覚寺の石仏(2) (地図番号⑤)

巡拝塔 山門入口の右側に六地蔵と並んで建つ高さ約1.2mの櫛型の塔で、天保15年(1844)に造立されています。

塔正面中央には「奉拜禮 南無観世音菩薩」、右に「西國秩父坂東」、左に「□□八十八ヶ所」と彫られています。左面の銘文から久保田家のご夫妻と息子さんが西国秩父坂東百観音と四国八十八ヶ所を巡拝されたことを記念して建てられたものと思われます。

境内には他に3基の巡拝塔があります。

頬焼け地蔵 観音堂内に安置されている高さ約50cmの坐像です。紀年銘はありませんが、寺伝によれば中世室町時代の作とされています。

「頬焼け地蔵」と呼ばれ、かつて妙覚寺が丘の上にあった頃に寺が焼け落ちた時の焼痕と伝えられています。

この伝承通りとすれば、この地蔵尊は市内最古の石造地蔵といえます。



巡拝塔(天保15年)



地蔵菩薩(年代不詳)

延命地蔵 本堂脇の大きな堂内に3体の石仏(地蔵2体と庚申塔1基)が並んでいます。

中央に建つ、宝珠と錫杖を持つ総高約2mの地蔵尊です。台石正面に「延命地蔵尊」と彫られており、中吉沢の寺前、宮下、新宿、神戸四久保の念仏講中が延命を願って、安政5年(1858)に金二百疋で七沢村の石工である山田正蔵に彫らせたものです。

庚申塔 延命地蔵尊の左側に建つ総高1mの笠付型庚申塔で、神戸村の講中が享保18年(1733)に造立したものです。

塔正面には日輪と月輪、六臂の青面金剛像が彫られ、上二手に斧と金剛杵、中央二手は合掌、下二手は弓矢を持っています。そして下部には三猿が彫られ、左右の猿は顔だけが正面を向き、身体は互いに外を向いています。

腹帯地蔵 延命地蔵尊の右側に建つ、右手に赤子を、左手に宝珠を持つ総高1.1mの地蔵尊で、文化13年(1816)の造立です。

台石正面には「腹帯地蔵大菩薩」と彫られており、安産を願って造立されたものと思われます。

明治6年(1873)に廃寺となった千手院から持ち込まれたものといわれています。



左側 庚申塔(享保18年)
中央 延命地蔵(安政5年)
右側 腹帯地蔵(文化13年)

上吉沢神戸路傍の文字道祖神 (地図番号⑥)

吉沢公民館裏の路傍に、上吉沢神戸集落で祀る高さ約75cmの文字道祖神があります。

自然石の正面に「道祖神 昭和七年一月一四日」(1932)、左面に「神戸久保中」と彫られています。周囲には五輪塔の一部である空風輪や宝篋印塔の残欠などが並べられています。

中吉沢では宮下、寺前、新宿、神戸の四集落でそれぞれ道祖神を祀っています。



文字道祖神(昭和7年)

上吉沢神戸路傍の弘法大師・廻国塔 (地図番号⑨)

吉沢小学校裏、千須谷との境近くの小道(旧金目道)脇に丸彫の弘法大師坐像が祀られています。この地で行き倒れとなった、廻国修行中の聖を神戸の人びとが助け、回復した聖はその後無事に廻国納経を成就し、願主となって建立したと言い伝えられています。

基壇正面に「六十六部 供養成就 願主青山如電」と彫られ、左右面に法華経の偈頌と宝暦11年(1761)の紀年銘が刻まれています。



弘法大師・廻国塔(宝暦11年)

八剣神社の狛犬 (地図番号⑩)

八剣神社は中吉沢の宮下にある大字上吉沢の鎮守で祭神は日本武尊、建速須佐之男命、大日靈貴命の三柱です。

社殿前に建つ狛犬(獅子)は、昭和4年(1929)氏子中によって造立されたもので、総高は約1.8m、阿形の獅子は前足で毬を持ち、吽形の獅子は前足で子獅子を支えています。

秦野の石工天野孝一のすばらしい彫りがみてとれます。



狛犬(昭和4年)

吉沢池畔の水神 (地図番号⑫)

吉沢の池は昭和8年(1933)食糧増産を目的として、日之宮山を水源とする宮下川の水を農業用水として確保するため、築造された溜池で昭和9年(1934)に完成しました。

この水神は、総高約1.1mで正面に大きく「水神」と彫られており、裏面には溜め池の完成を記念して、昭和9年吉沢耕地整理組合の人々が池の畔にこの水神を建立した旨が記されています。



水神(昭和9年)

霧降の滝の石仏 (地図番号⑬)

不動川の支流の一つである宮下川の溪流沿いの細道を遡ると、平塚八景の一つである霧降の滝があります。滝は高さ12mのところから霧のように流れ散るのでこの名が生まれたといわれています。見えにくいのですが、滝右奥の挟られた崖の中腹に不動明王、水神などが祀られています。

不動明王 不動明王はよく滝の傍に建てられています。

この不動明王は高さ約50cmと小さく、火炎光背を背に、右手に剣、左手に羂索を持ち、ぎょろっとした大きな目でこちらをにらんだユーモラスな姿をしています。頭上には不動明王を現す梵字「𑖀𑖔𑖄𑖨」が彫られていますが紀年銘は不明です。

毎年7月28日に、妙覚寺のご住職が祈祷をなされています。

水神 不動明王像の左に「不動水」と彫られた水神があります。

戦争中に建てられたもので、吉沢池の畔に水神を祀ったところ、造立主の夢枕に不動が現れ、「水は俺のものだ。水神とはけしからん」と言ったため、この碑を建てたとのことです。



不動明王(年代不詳)



水神(年代不詳)

日之宮神社の石祠 (地図番号⑬)

日之宮山(標高約150m)山頂に立つ神社で、文政2年(1819)に上吉沢村の氏子中によって建立され、昭和34年(1959)に再建されたものです。祭神は大日靈貴命(天照大神の別名)とされています。

設置された解説板によれば、明治41年(1908)に八剣神社へ合祀後は放置されていたが、のちに水不足に悩む氏子たちにより、祈願のため台石の一部を新調し、再建されました。



日之宮社(昭和34年再建)

上吉沢山中の立石(神体石) (地図番号⑬)

日之宮神社から急斜面を下ると大きな岩(立石)が現れます。

傍らに設置された解説板によれば、この石は立石と呼ばれ、底部約3.3m、高さ約3.5mほどの自然石で日本武尊が東征の折、山伝いにここまで来られ、この石に腰掛けてしばし休息し、付近一帯を眺められたといいます。また、この石を七回半廻ると、どこからか大蛇が出てくると伝えられており、神体石とされています。



立石(神体石)